

(9) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

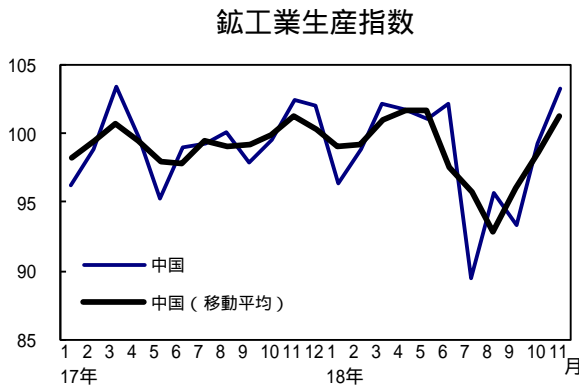
前回からの主要変更点

	前回(平成30年11月)	今回(平成31年2月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>	<u>緩やかな回復基調</u>	
個人消費	<u>持ち直しの動きが続いているものの、足踏み</u>	<u>持ち直しの動き</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10月、11月には、輸送機械は、増加した。化学は、一部事業所の定期修理明けのため増加した。はん用・生産用・業務用機械は、受注好調により印刷機械等が増加した。鉄鋼は、おおむね横ばいとなった。電子部品・デバイスは、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.5	15.9	-	3.9	7.6	-
化学	16.4	5.8	-	11.3	3.4	-
はん用・生産用・業務用機械	11.2	7.9	-	16.6	15.0	-
鉄鋼	7.7	6.1	-	1.9	2.3	-
電子部品・デバイス	7.1	6.5	-	9.9	5.7	-
鉱工業	100	8.8	-	6.3	4.1	-

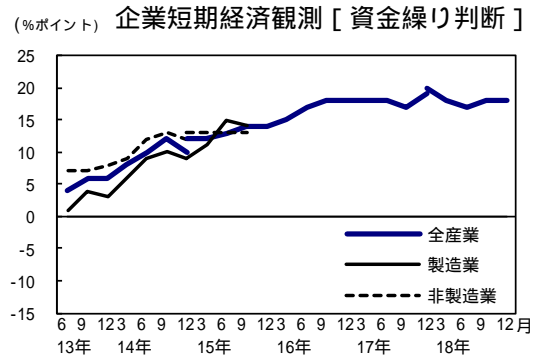
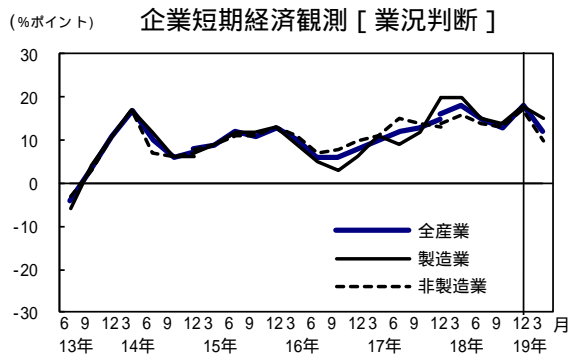
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種
 2. 11月は速報値。
 3. -は、10-12月期、12月の値が公表前のため。

- (備考) 1. 2010年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
 2. 中国の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

(9) 中国

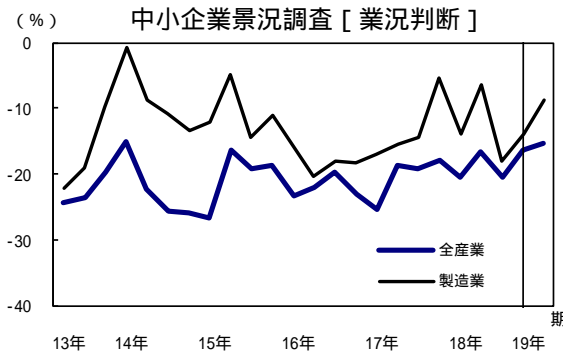
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

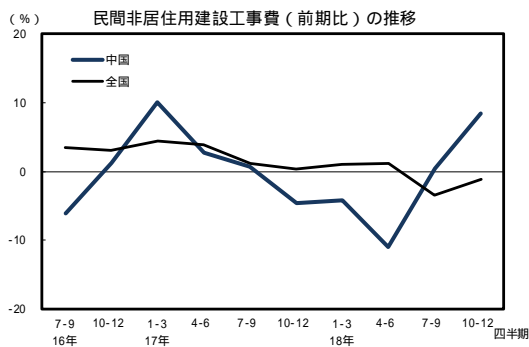


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2019年 は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「好調を維持していた系列完成車メーカーの世界販売が中国や北米で失速しており、地元部品メーカーの受注は高水準ながらも、前年比でマイナスとなっている(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	2017年度実績	2018年度計画
全産業	4.6	8.5 (0.6)
製造業	5.4	0.9 (6.5)
非製造業	3.3	19.0 (10.6)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

- (備考) 1. 季節調整値。
2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.1%増、11月は同0.6%増、12月は同0.9%減となった。

百貨店・スーパー販売額

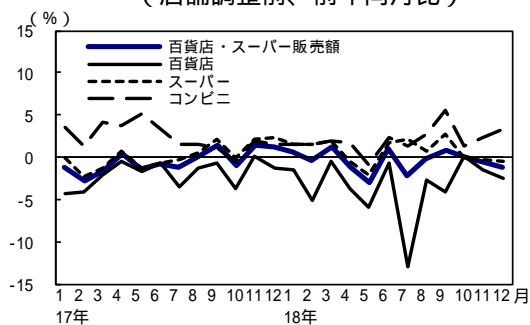
百貨店は、10月は、来客数が増え、衣料品が増加するなど、前年を上回った。11月は、冬物衣料品が苦戦し前年を下回った。12月は、衣料品や飲食料品が低調で前年を下回った。

スーパーは、10 - 12月期は、衣料品などが低調で全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

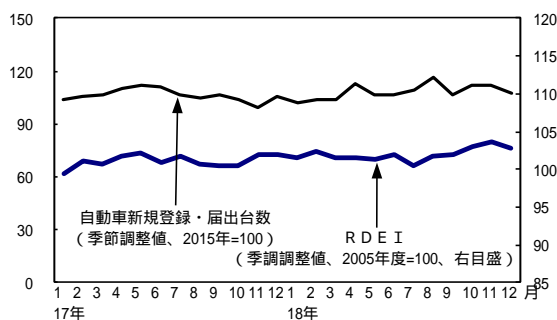
「前年の4月下旬に大幅改装し、平成30年7月豪雨災害以外の月は順調に来客数を伸ばしている (その他小売 [ショッピングセンター])」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.8	1.1	0.6	0.9
百貨店・スパー(*2)	0.6	0.0	0.6	1.1
百貨店(*2)	1.4	0.2	1.4	2.5
スーパー(*2)	0.3	0.1	0.2	0.5
コンビニ(*2)	2.4	1.3	2.4	3.4
乗用車(*3)	7.8	9.4	12.2	1.7
(季節調整値)(*3)	0.4	4.4	0.1	3.9

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

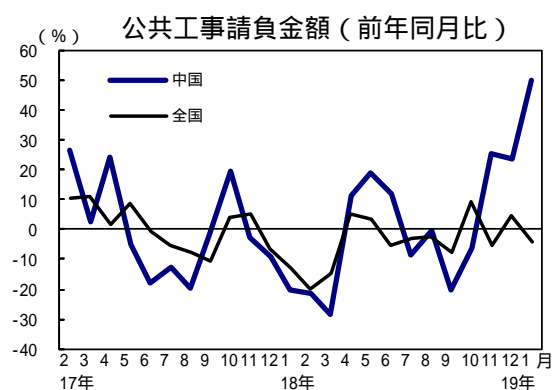
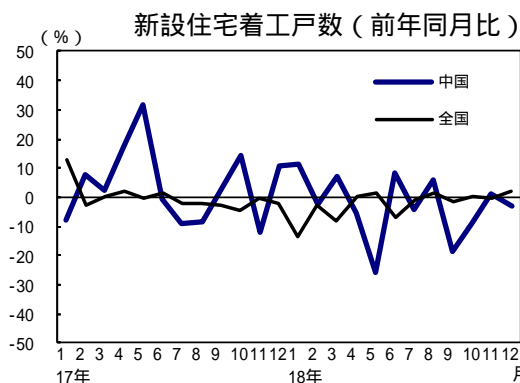
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を上回っている。



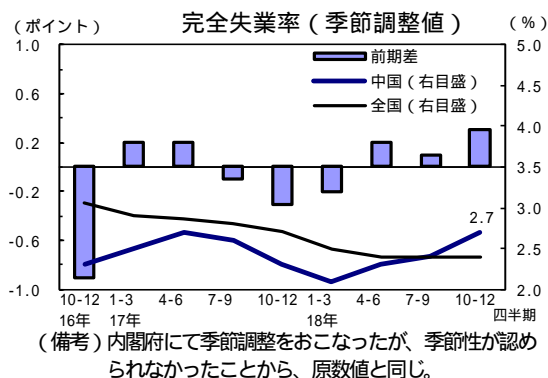
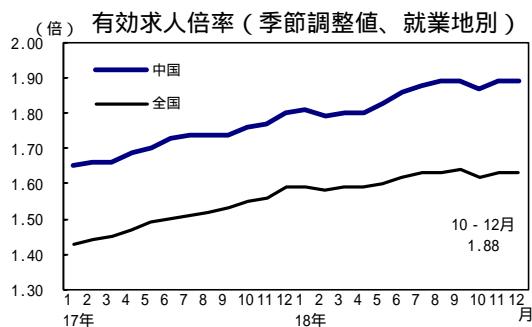
(9) 中国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

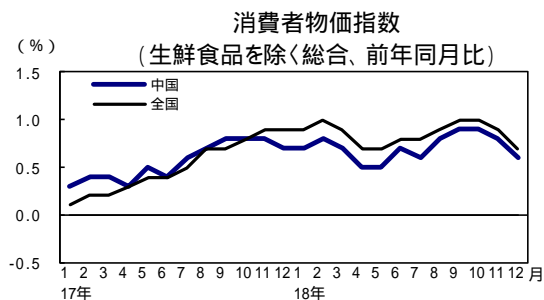
「現在、就職環境が好調なのは、若い人材の不足が影響しているためであり、景気の動きとは関係ない(学校[大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の増減幅が同水準となっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				2019年1月
	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
倒産件数 (前年比)	88 5.4	80 0.0	81 22.7	85 7.6	21 0.0
負債総額 (前年比)	128 77.4	97 14.0	225 66.4	132 59.0	89 238.7



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

